

S2-03

新採用研修医の就業前オリエンテーションにおける医療安全教育

名古屋第二赤十字病院 総合内科

○^{よこえ}横江 ^{まさみち}正道

【はじめに】医師免許を取得したばかりの研修医にとって医療の現場で起こり得る医療ミスや事故を防止する教育は極めて重要である。当院での新採用研修医オリエンテーションにおける医療安全教育の取組みに関して報告する

【対象/方法】新研修医24名。自分たちが起こす可能性があるミス10個を記載させ4人1組でSmall Group Discussionを行い対応方法も検討させた。その後、先輩研修医の実際のインシデントレポートを供覧した。次に研修医、看護師、患者、上級医の役割を設定し、入院患者のCT撮影や内視鏡検査など6つの業務に関するシミュレーションを行った。オーダーなどの手続きや同意書などの必要物品や搬送上の注意事項などもまずは議論させ計画立案をさせた。その際には事故防止策も検討事項に含めた。その後、実際に患者役を車いすに乗せて研修医役と看護師役が実際の検査部門に搬送するシミュレーションを行った。搬送中に起こりうる患者の容態変化やトラブルなどへの対処も求めた

【結果】コミュニケーションミスやオーダーミス、ごみの分別ミスなどが研修医が想定できるミスとして回答されたが、シミュレーション後は、患者を快適に運ぶことのむずかしさや点滴ルートの巻きつきなどを経験した。非常に実践的で看護師との連携など医学生時代には全く気づかなかったことを就業前に学ぶことができ有意義であったという感想が得られた。「いろいろな役をもっとやりたかった」という前向きな回答も多かった。

【考察】医師としての成長を助ける上で安全に医療を行うことの重要性はあまり強調されていない。就業前に起こし得るミスを想像させ実際のシミュレーションを通して起こりそうなミスを、多くの「気づき」を身をもって学ばせることは重要である。

【結語】就業前オリエンテーションにおいて医療安全の重要性を学ばせた。

S2-04

多職種チーム医療推進のためのリーダー看護師研修実施報告

さいたま赤十字病院 専門・認定看護師会

○^{ふるまや}古厩 ^{ともみ}智美、^{まこと}福田 真弓

【背景】チーム医療は今や、医療安全上必要なものであるが、実際には職種間の考え方等から齟齬を生じ、成立しない場面もある。この困難な状況を表す概念に「信念対立」がある。

【研修目的】業務遂行上で生じる信念対立の構造の把握と、その解明の考え方の基盤を学ぶこと

【研修方法】チーム医療に関する著書の執筆者を講師として招き、全2回シリーズで、初回試行のため看護師のみ院内公募とした。

第1回目課題は、「チーム医療で悩むことについて『なぜ起こるのか』を問う」であった。第2回目課題は、「第1回目の講義後、実践の変化と感じた困難さの報告・検討」であった。職位による発言の差し控えないよう職位でグループ分けをした。

両日共に各グループで討議し、ポストイットにデータとして残し、意味ある内容ごとにまとめ、内容同士の関係性を検討し、抱えている問題の本質と関係性を見出した。各グループで発表し、視点や考え方の違いを共有した。講師が各グループに参加しファシリテートを行った。

本報告では、研修内で出されたワードから特徴的な用語を抽出し、見出された特徴の説明を試みる。

【結果】師長・看護係長が13名、病棟リーダー的役割の看護師6名が参加した。発表の結果、同職種内でも職位の違いで関心の向ける方向が異なることが分かった。管理職がチーム医療阻害要因として関心を向けていたのは医師の存在で、チーム医療に必要なだとしていたのが、経済や経営的視点と組織であった。職位のない看護師は、阻害要因として同職種内の管理職の存在を上げていたが、チームとしての一体感や、組織とチームの違いを述べていた。

【考察】管理職が挙げたチーム医療阻害要因は職種間対立の典型例だと言える。一方、管理職とスタッフの違いは、立ち位置によってその関心の向け方が異なることの現れであると言える。